

■ **福原信三** **写真家**、**実業家**。{資生堂}を一流ブランドに育てながら、アマチュア写真家を代表して、写真界を牽引した。

ふくはらしんぞう

岩倉具視没・1883＝ 東京銀座で、_資生堂の創業者福原有信の三男に生まれる。

帝国憲法発布1889＝ 6歳：

大本教・・・1892＝ **9歳**：弟(四男)信辰(後の写真家福原路草)が誕生。

日清戦争始・1894＝11歳：

八幡製鉄始・1897＝14歳：末弟(五男)信義(写真家・後の並木透)が誕生。この頃、_カメラを手にし、{東洋写真会}に人会。

田中正造直訴1901＝**18歳**：

日比谷公園・1903＝20歳：私立正則中学校を卒業し、千葉医学専門学校薬学科に入学。

日露戦争終・1905＝22歳：

満鉄発足・・・1906＝23歳：卒業。

アサヒ創刊・1908＝25歳： 家業の化粧品等研究のため、渡米し、ニューヨークのコロンビア大学薬学部入学するが、留学中の画家川島理一郎と知り合い、写真について見識をひろめるようになる。

韓国併合・・・1910＝**27歳**：_卒業後、アメリカに留まり、化粧品会社・ドラッグストアなどに勤務し、

明治天皇没・1912＝29歳： ヨーロッパへ渡って各地を訪ね、美術に触れて刺激を受け、ハンブルクに有名な写真家デュルコップを訪ね、パリに留学中の画家らと交流するうち、注文していたカメラが届くや、写真撮影にいそしみ、
大正政変・・・1913＝30歳： 夥しい数の撮影済みネガを携えて、帰国。

21ヶ条要求・1915＝32歳： *父から社長を譲られて。以後、資生堂の経営にあたり、

民本主義・・・1916＝33歳： 銀座に資生堂化粧品部を開店。

ベルサイユ条約・1919＝**36歳**：_資生堂化粧品部2階に、陳列場(後の資生堂ギャラリー)を開設などした後、

原敬首相暗殺1921＝38歳： {銀座}を刊行。大田黒元雄・掛礼功と{写真芸術社}を設立、弟路草も参加、{写真芸術}を創刊。3人による写真展覧会を資生堂陳列場にて開催し、パリでの作品中心にヨーロッパ各地の作品を展示。

水平社結成・1922＝39歳： *写真集「巴里とセイヌ」を刊行し、写真家デビュー。{写真芸術}に「光と其諧調」の作品シリーズを発表しはじめ一世を風靡。三越での「美影会展覧会」ほか{写真芸術}関係展覧会、資生堂での諸展覧会に次々出品。

関東大震災・1923＝40歳： 「福原信三写真画集・光と其諧調」を刊行。「日本光画芸術協会作品展覧会」に特別出品。関東大震災で{写真芸術社}が壊滅し、{写真芸術}も廃刊。

護憲三派圧勝1924＝41歳： この年、父有信が死去。続いて、母とくも死去。_{シセイドウ・フォト・ジュニオル・サークル}発足。森芳太郎主宰の{光画会}と合併し{日本写真会}を設立。「アルビン・ランドン・コウバーン写真展覧会」、

治安維持法・1925＝42歳： 「露西亜写真協会展」を開催するなど、外国人作家の紹介につとめる。{日本写真会}会長に就任、同会初の展覧会「第一回日本写真会展覧会」を開催し、会員も急増。以後、同会展覧会にはその都度出品。写真週間の関連行事「芸術写真・肖像写真展覧会」(三越)に会として参加し、自身も出品。

円本時代始・1926＝43歳： {全関東写真連盟}の創立に参画して審査員となり、発足した{全日本写真連盟}の委員・鑑査員になる。

金融恐慌・・・1927＝44歳： *外国から1000点超える応募のあった「第一回国際写真サロン」の審査員となり、世界的写真年鑑「フォトグラム・オブ・ジ・イア」の日本部を担当するに至るが、新築まもない東京府美術館で「第三回日本写真会展覧会」を開催し、仲田勝之助の辛辣な批評を受けて以後、沈滞して行く。{資生堂}を株式会社にし、初代社長。

共産党事件・1928＝**45歳**： 資生堂化粧品部ビルが落成し、2階に資生堂ギャラリーと資生堂立体写真像部を開設。{国画会}評議員。

海軍軍縮条約1930＝47歳： 翌年にかけて中国を旅行し、

満州事変・・・1931＝48歳： 写真集「西湖風景」を刊行し、ロサンゼルス市博物館での「加州日本人カメラ倶楽部展覧会」にも出品。

五一五事件・1932＝49歳： 台湾旅行。

国際連盟脱退1933＝50歳： 「福原信三西湖風景写真展」。

帝人疑獄事件1934＝51歳： _南アフリカ・ケープタウンで「第9回日本写真会展覧会」を開催。ドイツ写真連盟主催のフランクフルト「南西独逸写真展覧会」に出品。

芥川直木賞始1935＝52歳： 島根県松江に旅行し、写真集「松江風景」を刊行。「巴里とセイヌ」複写版を刊行。

二二六事件・1936＝53歳： 夫人をともない野島康三夫妻とともにハワイ旅行。

日中戦争始・1937＝**54歳**： 写真集「布哇風景」刊行。ニューヨークの{1937年度国際写真サロン}出品。{日本写真家協会}創立発起人。

第二次大戦始1939＝56歳： 野島康三とともに、{国画会}に写真部を創設し、同人・審査員となる。

大政翼賛会・1940＝57歳： ふたたび台湾旅行。_資生堂取締役社長を辞任し、取締役会長に就任。

日米開戦・・・1941＝58歳：

創価学会換拳1943＝60歳： 編著「武蔵野風物写真集」を刊行。「福原信三随筆写真を語る」「福原信三論説写真芸術」を刊行。

年金+総武装 1944＝61歳： *{日本写真会}を解散。資生堂取締役会長を辞任し、相談役となる。

敗戦・・・1945＝62歳： 敗戦後、

新憲法公布・1946＝**63歳**： {日本写真会}再建し、ふたたび会長となるが、この年、弟路草が死去。

極東裁判決・1948＝65歳： _没した。